

平成25年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
畜産部門

雲仙普賢岳噴火災害から再起。地域に根ざした家族で営む養鶏経営

- 氏名又は名称 横田 清廣・横田 サチ子
- 所在地 長崎県南島原市
- 出品財 経営（肉用鶏）
- 受賞理由

・地域の概要

南島原市は、島原半島の南東部に位置し、雲仙普賢岳を中心に穏やかな丘陵地帯と海岸沿いに広がる平野部からなる。人口の約1割が農業に従事し、農業産出額は長崎県の約16%を占め、ばれいしょ、葉たばこ等の作付や畜産が盛んな地域である。

平成2年11月に雲仙普賢岳が噴火し、同7年5月に噴火活動が停止するまでの5年間で9,400回に及ぶ火砕流と60回の土石流が発生した。人的被害や家屋・施設・耕地災害等をもたらし、被害総額2,300億円のうち農畜産業分野の直接被害額は389億円にのぼった。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

受賞者の農場は、雲仙普賢岳から直線距離にして数kmに位置する。昭和52年に就農、平成2年にブロイラー専業となるが、その直後に普賢岳の噴火災害で避難生活となり経営中止を余儀なくされた。平成5年、強い理念をもって経営を再開し、以後、中長期計画に基づき着実に規模を拡大、高い経営能力や飼養技術により、現在は2人の後継者と共に好成績のブロイラーを生産している。九州地域の養鶏場に出向いての指導や、東北や北海道より訪れた養鶏関係者に対して飼養技術のアドバイスをを行うなど、指導的立場にある。平成23年には13万羽飼養し3億円以上の売上高をあげ、24年には17万羽と着実に羽数を伸ばし、きわめて優良な経営を行っている。

・受賞者の特色

(1)被災からの復興

ブロイラー専業開始直後に、雲仙普賢岳噴火による被災で自宅・鶏舎が立入禁止区域となり、一時は廃業したがその後再開、着実に経営を拡大している。被災後も地元でこだわり地域に根ざした農業振興に勇気を与えている。

(2)高い飼養技術

早期出荷できる鶏種を導入し、高い飼養技術をもって県の指標をはるかに上回る成績の肉用鶏を生産し、高収益を実現している。また、環境に配慮した鶏舎照明のLED化、省力化を目指したライブカメラの設置等も行っている。消毒設備や防鳥ネットの設置など鳥インフルエンザ等の病気を防除するための対策にも努めている。

(3)2名の後継者と共に働きやすい就農環境を実現

長男、次男が就農し、地域のリーダー的存在となってきた。家族協定を締結し雇用者に配慮した明るい働きやすい環境を整えている。

(4)地域との共存共栄

耕種農家と共に堆肥舎を建設し、分担して作業を行い無償で堆肥を供給するなど地域との良好な関係を保っている。

・普及性と今後の発展方向

「ブロイラー事業への投資は鶏で返す」という基本方針の下、夫婦2人で堅実な規模拡大、きめ細かい飼養管理技術をもって生産性の向上に取り組んできた。この理念や高い飼養技術を2人の後継者が引き継いでおり、また、地域の他の養鶏業者にも技術指導を行うなど、同農場のみならず地域における農業振興に寄与しており、今後の発展も期待される。